

平成30年度行政事業レビューシート(内閣官房)

事業名	新型インフルエンザ等対策経費			担当部局庁	内閣官房副長官補	作成責任者		
事業開始年度	平成25年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	新型インフルエンザ等対策室	企画官 長谷川 学		
会計区分	一般会計							
根拠法令(具体的な条項も記載)	新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成二十四年五月十一日法律第三十一号)第12条、第13条			関係する計画、通知等	新型インフルエンザ等対策政府行動計画			
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成24年法第31号。以下「特措法」。)に基づき、新型インフルエンザ等の発生に備え、対策の司令塔となる国において実践的訓練を行うことにより、国としての対処能力の向上や行動計画の精度の向上を図る。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	新型インフルエンザ等対策は、医療提供機関のみならず、特措法第12条において、国、都道府県、市町村、指定公共機関、住民等が緊密に連携して訓練を行うべき旨、定められているところである。訓練内容については、病原性、感染によりダメージを受けやすい層、感染拡大の状況や発生の時期、まん延による社会活動が受けるダメージの状況など、想定すべき事項が複雑・多岐に渡るものであるため、対策の司令塔となる政府対策本部において、訓練の前提となるシナリオを作成した上で実施し、同時に訓練成果の評価を客観的に行う事業である。これにより、関係省庁における制度上の手続き及び役割に関する知識を深化させ、努力義務のある都道府県・指定公共機関等に対し、訓練の実施を促し、また、広く情報発信することで同対策の重要性について、国民への普及・啓発を行い、もって、地方公共団体を含めた国全体としての対処能力の向上や行動計画の精度の向上を図り、新型インフルエンザ等発生時の適切な対応を確保していくものである。							
実施方法	直接実施							
予算額・執行額(単位:百万円)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求		
	予算の状況	当初予算	10	13	11	3	2	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
	計	10	13	11	3	2		
	執行額	8	2	0.2	-	-		
執行率(%)	80%	15%	2%	-	-			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	80%	15%	2%	-	-			
平成30・31年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	1	0.9					
	庁費	0.7	0.4					
	諸謝金	0.5	0.5					
	委員等旅費	0.4	0.3					
	-	-	-					
	計	3	2					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	-							
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載					チェック			

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と27～29年度の達成状況・実績						
		当事業は、国として新型インフルエンザ等への対処能力の向上や行動計画の精度の向上を図るための事業であり、定量的な成果目標、成果指標を設定することが困難である。			特措法上、努力義務を有する都道府県・指定公共機関等において、実際の訓練実施件数は、目標値に及ばなかったが、着実に増加傾向にあり、一定の成果が上がっている。今後は、実施件数の増加はもとより、訓練の質の向上を目指していく。						
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標最終年度 32年度		
	全ての関係府省庁、都道府県等に、自ら主催する訓練を実施させるとともに、訓練の質を高めていくことを目標とする。		関係府省庁及び都道府県等が実施する対策訓練数（最終的には、指定地方公共機関を含む。）	実績	件	823	894	935	-	-	
				目標値	件	1,909	1,912	1,912	1,912	2,985	
				達成度	%	43	47	49	-	-	
活動指標及び活動実績（アウトプット）	活動指標			単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込		
	政府対策本部の対処能力の維持・向上を目的に様々なシナリオで訓練を行うものであるから、固定的な活動指標等を定めることは困難であるが、「訓練の実施」「訓練促進に係る調査報告資料の作成」等を通じて、事業目的を達成する。			活動実績	-	-	-	-	-		
				当初見込み	-	-	-	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠			単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込			
	新型インフルエンザ等対策政府全体訓練（内閣官房主催の訓練及び連携した自治体訓練の視察）にかかる単位あたり費用は右の通り。ただし、訓練の実施のみならず、普及啓発資料の作成やシンポジウムの開催など、様々な機会を活用して事業の目的を達成している。			単位当たりコスト	千円	37	7	70	100		
				計算式	視察費用／視察回数	147,723／4回	14,317円／2回	70,750円／1回	400,000円／4回		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	-									
		施策	-								
	測定指標		定量的指標			単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度
					実績値	-	-	-	-	-	
					目標値	-	-	-	-	-	
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況（目標）						
					-	-					
					-	施策の進捗状況（実績）					
				-	-						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
-											
改革項目	分野:	-									
	KPI（第一階層）	KPI（第一階層）			単位	計画開始時 -年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
					成果実績	-	-	-	-	-	
					目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-		
	KPI（第二階層）	KPI（第二階層）			単位	計画開始時 -年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
					成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-			
			達成度	%	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

			項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	訓練を行うことで、有事の際に政府対策本部としての役割を確実に果していくことが求められており、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	特措法第3条では、新型インフルエンザ等が発生したときは、国が自ら対策を的確かつ迅速に実施し、並びに地方公共団体及び指定公共機関が実施する対策を的確かつ迅速に支援することにより、国全体として万全の態勢を整備する旨が定められており、発生に備えた訓練の実施、普及啓発は国の責務であると同時に、地方公共団体等と緊密に連携して取り組む必要があるため。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	有事の際に政府対策本部としての役割を確実に果していくために、必要不可欠な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			-	
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無	-
		競争性のない随意契約となったものはないか。		無	-
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	旅費支給規程等に基づいた適正な額である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	事業目的以外の費目・使途は見受けられない。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			○	事業の見直しを行い、外部委託を行わなかったこと等のため。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			-	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	国及び地方自治体等の危機対処能力の向上に資しており、成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			-	-
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-	
	所管府省名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	国費投入の必要性、事業の効率性、事業の有効性いずれも妥当と思考する。関係府省庁及び都道府県等が実施する対策訓練については、目標値に達していない。また、政府訓練の都道府県における報道状況を把握できていない。			
	改善の方向性	訓練実施実績については、関係省庁及び都道府県等を対象とした「担当者説明会」等の機会を捉え、働きかけていく。また、政府訓練の都道府県における報道状況の把握について、同説明会等の機会を捉え、個別に聞き取りを行い、具体的手法を検討していく。			

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

一 事業部の改善内容

引き続き、効果的・効率的な事業の実施に努めることとし、効率的に執行した実績を概算要求に反映させること。
また、訓練実施実績が目標を達成できるよう、引き続き関係府省庁及び都道府県等へ働きかけることとし、訓練の質向上にも取り組むこと。
以上に加え、政府訓練の都道府県における報道状況の把握について具体的手法の検討を進めることとし、代替的な達成目標とすることができないかを引き続き検討すること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改年度を内検に

今年度における効果的・効率的な事業の実施見込みを踏まえ、概算要求へ反映している。
また、訓練実施実績が目標を達成できるよう、既に実施した「担当者説明会」において、関係省庁及び都道府県等へ働きかけを行った。引き続き、今年度の各訓練の機会を捉え、働きかけを続けていく。政府訓練の都道府県における報道状況の把握については、引き続き具体的手法の検討を進めていく。

備考

-

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	新25-0002
平成26年度	0016	平成27年度	0004	平成28年度	0004		
平成29年度	内閣官房 (0004)						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

内閣官房
0.2百万円

【その他】

A. 個人(7名)
0.2百万円

- ・『都道府県等に対する訓練説明会』開催に係る委員等旅費及び謝金
- ・自治体が実施した平成29年度新型インフルエンザ等対策訓練視察等のための職員旅費
- ・『訓練促進に係る検討会』開催に係る委員等旅費及び謝金

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」に おいてブロックご とに最大の金額 が支出されている 者について記載 する。費目と使途 の双方で実情が 分かるように記 載)	A.			B.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
	計			0	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A	-	委員等旅費及び諸謝金	0		-	--	
2	個人B	-	委員等旅費及び諸謝金	0		-	--	
3	個人C	-	委員等旅費及び諸謝金	0		-	--	
4	個人D	-	職員旅費	0		-	--	
5	個人E	-	職員旅費	0		-	--	
6	個人F	-	職員旅費	0		-	--	
7	個人G	-	諸謝金	0		-	--	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 チェック

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-		-	--	